

# 2013年3月期 第1四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

いちばん、人を考える会社になる。

**第一生命**

## 第一生命保険株式会社

証券コード:8750

### 2013年3月期 第1四半期決算のポイント

- 営業業績に関しては、国内の営業職員チャネル、銀行窓販チャネル、海外市場のいずれにおいても順調に推移しました。
- 内外の金融市場は調整色を強め、運用面で一定の影響を受けたほか、前年度からの特殊要因の反動もあり増収・減益決算となりました。しかし、健全性強化に向けたリスク管理や内部留保の蓄積、成長分野への取り組み等、中長期での収益改善に向けた施策を着実に実行しています。
- 金融環境は楽観視できないものの、営業業績が堅調であることや、運用面では市場の変化に機動的に対応することで、通期での資産運用損益の改善等を見込むことから、2013年3月期の業績予想は据え置きとしています。

#### (1) 経常収益

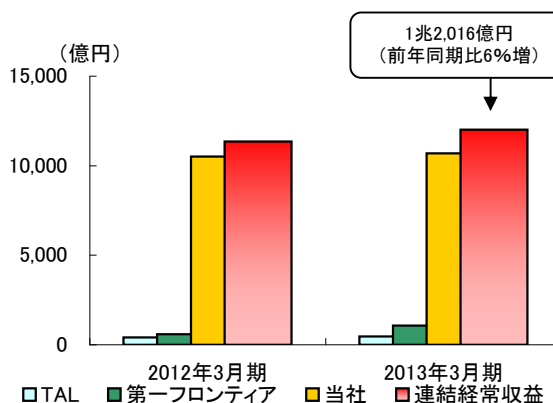
連結経常収益は1兆2,016億円（前年同期比6%増）となりました。

営業職員チャネルにおいて主力商品の販売が堅調であったことに加え、銀行窓販チャネルにおける定額年金の販売が大きく伸びました。また、豪州TAL社(注)の個人向け保障性商品の販売も好調であったこと等から増収となりました。

(注)TAL社とは？

2011年5月、当社の関連会社だったタワー社(TOWER Australia Limited)を完全子会社化し、2011年4月1日より連結業績に取り込んでいます。タワー社は2011年6月に社名変更を行い、TAL社(TAL Limited)となりました。

#### 経常収益 第1四半期実績

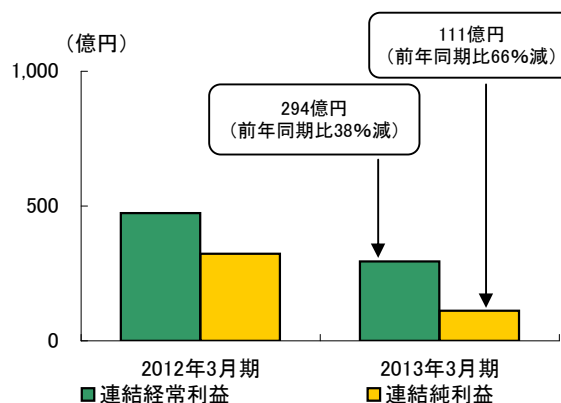


## (2) 経常利益・純利益

連結経常利益は294億円(前年同期比38%減)、連結四半期純利益は111億円(同66%減)となりました。

厳しい金融環境を反映した運用収支の悪化や第一フロンティア生命(以下、「第一フロンティア」)での責任準備金繰入の増加、前年同期にTAL社の全額出資子会社化に際し、特別利益を計上していた反動等から経常収益は増収ながら、経常利益・四半期純利益では減益となりました。

### 経常利益・純利益 第1四半期実績

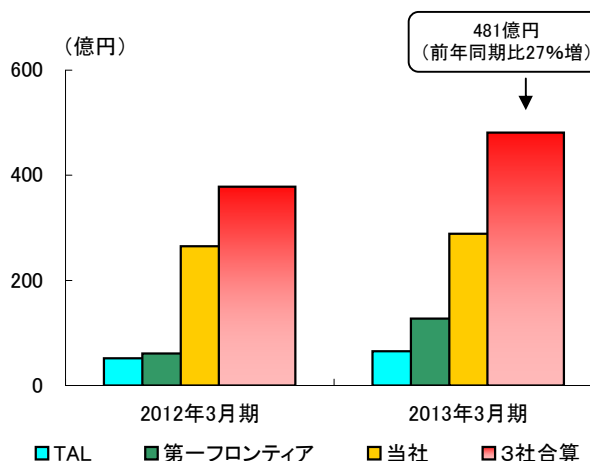


## (3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した新契約年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険の合計)、第一フロンティア、TALの3社合算で、481億円となりました。

当社において主力商品の販売等が好調であったことに加え、第一フロンティア生命の定額年金の販売、TALの個人向け保障性商品の販売増加が寄与し、前年同期比27%の増加となりました。

### 新契約年換算保険料 第1四半期実績



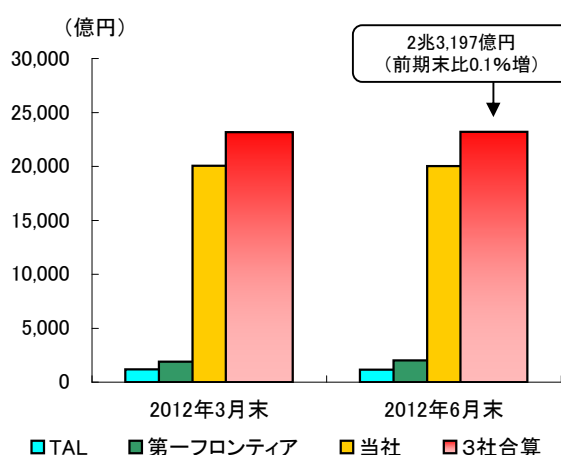
## (4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した保有契約年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険の合計)、第一フロンティア、TALの3社合算で、2兆3,197億円となりました。

TALの年換算保険料は、現地通貨建てでは増加しましたが、円換算では若干のマイナスとなりました。しかし、当社において第三分野が引き続き堅調であったことや、第一フロンティアでの定額年金の販売が好調であったこと等から、第一生命グループ全体では前期末から0.1%の増加となりました。

内外の成長分野がバランスよく貢献し、保有契約の成長を支えています。

### 保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2012年6月末)は、1兆474億円となりました。

金利が低下したことにより、国内債券の含み益は増加しましたが、国内株式の時価が下落したこと等により、含み損益全体では、前年度末比で約1,325億円の減少となりました。

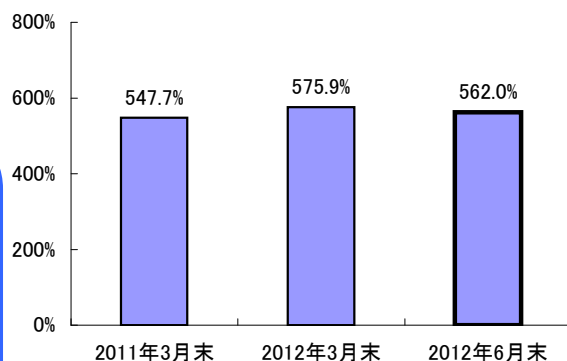
含み損益(当社、一般勘定)

	2012年		(億円)
	3月末	6月末	増減
有価証券	12,156	10,582	△1,573
うち国内債券	7,906	9,252	+1,346
うち国内株式	2,978	908	△2,069
うち外国証券	1,144	348	△795
不動産	△365	△111	+254
その他共計	11,799	10,474	△1,325

(6) ソルベンシー・マージン比率<sup>(注)</sup>

ソルベンシー・マージン比率(2012年6月末)は、有価証券含み益の減少等により、前期末と比べ若干低下し、562.0%となりました。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) 業績予想

国内外の市場環境は楽観できない状況にあります。営業業績がいずれのチャネルにおいても堅調であることや、運用面では市場の変化に機動的に対応することで通期での資産運用損益の改善等も見込まれることから、2013年3月期の業績予想については、期初予想を据え置くこととしております。

連結業績予想

	2012年3月期		(億円)
	(実績)	(予想)	増減
経常収益	49,317	45,960	△3,357
経常利益	2,259	1,380	△879
当期純利益	203	250	+46
(円)			
1株当たり			
当期純利益※	2,061	2,528	+466
1株当たり			
期末配当金	1,600	1,600	-

※1株当たり当期純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予測する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。